

# 古文ドリル：「給ふ」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：「給ふ」の正体（2用法）

古文の補助動詞「給ふ」は、**活用の段（四段か下二段か）**で意味がまったく変わります。見分けの最短ルートは**連体形・已然形**を見ることです。

用法	活用	訳	例
① 尊敬の補助動詞	<b>四段</b> （給は・給ひ・給ふ・給ふ・給へ・給へ）	お～になる／～なさる	仰せ <b>給ふ</b>
② 謙譲の補助動詞	<b>下二段</b> （給へ・給へ・給ふ・ <b>給ふる</b> ・ <b>給ふれ</b> ・給へよ）	～ております／～ております	思ひ <b>給ふる</b>

### 識別の鉄則

1. **連体形「給ふる」・已然形「給ふれ」**を見たら → **下二段＝謙譲**（決定的）。
2. **未然形「給は」**（給はず・給はで）を見たら → **四段＝尊敬**。
3. **未然形「給へ」**（給へず）を見たら → **下二段＝謙譲**。
4. **直前の動詞が「思ふ・見る・聞く・覚ゆ・知る」**など**感覚・思考動詞**で、会話文・心内文なら → **下二段＝謙譲**の可能性大。
5. **主語が貴人**（帝・大臣・姫君など）で地の文なら → **四段＝尊敬**。

## 🎯 解き方のコツ（試験本番で3秒）

### コツ① 「給ふる」「給ふれ」が見えたら謙譲（下二段）

- ・ 連体形**給ふる**・已然形**給ふれ**は下二段だけの形。「思ひ給ふる」「見給ふれば」を見たら謙譲「～ております」で即決。

### コツ② 「給は」は尊敬（四段）、「給へず」は謙譲（下二段）

- ・ 「給は**ず**／給は**で**」＝四段未然＝尊敬。
- ・ 「給**へず**」＝下二段未然＝謙譲。
- ・ 同じ「ず」が付いても、直前が「給は」か「給へ」かで段が分かる。

### コツ③ 直前の動詞と文の種類を見る

- 会話文・心内文で「**思ひ**給ふ／**見**給ふ／**聞き**給ふ／**覚え**給ふ／**知り**給ふ」→ 下二段謙譲を疑う。
- 地の文で主語が貴人 → 四段尊敬。

### よくある引っかけ

- 「給へば／給へど」は四段已然形＝尊敬（下二段なら「給ふれば／給ふれど」）。
- 「給へ。」と文を終えていれば四段命令形＝尊敬「～なさい」。
- 連用形に付かず「物を給ふ」のように使えば**本動詞**「お与えになる」。

## 採点表

各セッションごとに自己採点し、最後に合計を記録してください。

- 基礎 (Q1～Q20) : /20
- 標準 (Q21～Q50) : /30
- 応用 (Q51～Q80) : /30
- 入試レベル (Q81～Q100) : /20
- 合計 : /100

## 【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

活用形がはっきり分かる例で、四段（尊敬）と下二段（謙譲）を見分ける。

**Q1. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

帝、歌詠み**給ふ**。

**Q2. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

思ひ**給ふる**。

Q3. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

仰せ給ふ。

Q4. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

見給ふれば。

Q5. 次の傍線部「給は」を識別せよ。

読み給はず。

Q6. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

大臣、出で給ふ。

Q7. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

覚え給ふる。

Q8. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。

立ち給ひぬ。

Q9. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

聞き給へず。

Q10. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

姫君、琴弾き給ふ。

Q11. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

知り給ふること。

Q12. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

帝、ご覧じ給ふ。

Q13. 次の傍線部「給は」を識別せよ。

仰せ給はで。

Q14. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

思ひ給ふれど。

Q15. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

中納言、参り給ふ。

Q16. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

急ぎ給へ。

Q17. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

見給ふるに。

Q18. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

上、笑ひ給ふ。

Q19. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

申し給へば。

Q20. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

承り給ふる。

## 【第2部】標準編 (Q21~Q50)

直前の動詞・文の種類（地の文／会話文）も手がかりに見分ける。

Q21. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

大将、文書き給ふ。

Q22. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

いとうれしく思ひ給ふる。

Q23. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。

歩み出で給ひけり。

Q24. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

え見給へず。

Q25. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

后、われを召し給ふ。

Q26. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

聞き給ふれば、げにと覚ゆ。

Q27. 次の傍線部「給は」を識別せよ。

帰り給はず。

Q28. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

心得給ふる。

Q29. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

君、歌うたひ給ふ。

Q30. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

覚え給へず。

Q31. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

とく往（い）に給へ。

Q32. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

大殿、渡り給ふ。

Q33. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

見給ふるままに。

Q34. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。

物語し給ひて。

Q35. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

思ひ給ふれど、え言はず。

Q36. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

院、笛吹き給ふ。

Q37. 次の傍線部「給は」を識別せよ。

出で給はむとす。

Q38. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

うけたまはり給ふるやうは。

Q39. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

親王（みこ）、馬に乗り給ふ。

Q40. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

知り給へず。

Q41. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

中宮、櫛けづり給ふ。

Q42. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

見給ふれど、定かならず。

Q43. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。

嘆き給ひけり。

Q44. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

さも思ひ給ふる。

Q45. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

主上（うへ）、うなづき給ふ。

Q46. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

心して仕うまつり給へ。

Q47. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

聞き給ふることども。

Q48. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

大納言、髪なで給ふ。

Q49. 次の傍線部「給は」を識別せよ。

許し給はば。

Q50. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

覚え給ふれば。

## 【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

---

「給へ」(四段已然・命令／下二段未然)の判別、本動詞、紛らわしい例を中心に。

---

---

Q51. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

仰せ給へば、かしこまる。

---

---

Q52. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

思ひ給へず。

---

---

Q53. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

いざ、もろともに行き給へ。

---

---

Q54. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

心細く覚え給ふる。

---

---

Q55. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

聞き給へで、過ぎぬ。

---

---

Q56. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

とどまり給へと申す。

---

---

Q57. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

帝、剣を給ふ。

Q58. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

思ひ給ふれど、口には出ださず。

Q59. 次の傍線部「給は」を識別せよ。

仰せられ給はず。

Q60. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

いかが思ひ給ふる。

Q61. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

上、のたまはせ給ふ。

Q62. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

上達部（かんだちめ）、酒たうべ給ふ。

Q63. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

げに見給ふるに、あはれなり。

Q64. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。

うち泣き給ひぬ。

Q65. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

知り給へで侍り。

Q66. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

大君、笛を人に給ふ。

Q67. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

承り給ふれば。

Q68. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

はやく出で給へ。

Q69. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

ありがたく思ひ給ふる。

Q70. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

殿、御簾を上げ給ふ。

Q71. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

見給へしに。

Q72. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

後の宮、まどろみ給ふ。

Q73. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

聞き給ふるにつけても。

Q74. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。

涙を流し給ひけり。

Q75. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

たまさかに見給へしかど。

Q76. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

帝、御衣（おんぞ）を脱ぎて給ふ。

Q77. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

知り給ふればこそ。

Q78. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

春宮（とうぐう）、文読み給ふ。

Q79. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

急ぎ参り給へ。

Q80. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

あさましく覚え給ふる。

## 【第4部】 入試レベル（Q81～Q100）

文の種類・主語・直前動詞を総合して、四段尊敬・下二段謙譲・本動詞を判別する。

Q81. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

大臣、われに位を給ふ。

Q82. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

をさなき心地に、いみじとのみ思ひ給ふる。

Q83. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

仰せ給へど、聞かず。

Q84. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

御覧じ給へ。

Q85. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

をかしと見給へしかば。

Q86. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

入道殿、双六（すごろく）打ち給ふ。

Q87. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

心のうちに思ひ給ふれば、いとほし。

Q88. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

院、笑ひて答へ給ふ。

Q89. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

聞き給へしことを申す。

Q90. 次の傍線部「給は」を識別せよ。

思し召し給はぬにや。

Q91. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

うけたまはり給ふるにつけて、涙ぐむ。

Q92. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

帝、御手づから杯を給ふ。

Q93. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

思ひ給へわづらひ侍り。

Q94. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

女御、琴をかき鳴らし給ふ。

Q95. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

見給ふれども、それとも分かず。

Q96. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

安らかに過ごさせ給へ。

Q97. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

数ならぬ身に知り給ふる。

Q98. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

大将、矢を取りて射給ふ。

Q99. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。

よくよく聞き給へよ。

## 採点振り返り

おつかれさまでした。間違えた問題は、「給ふ」の活用の段をもう一度確認しましょう。

- **四段活用＝尊敬**「お～になる」。未然形給は・連用形給ひ・已然/命令形給へ（給へば・給へど・給へ。）。主語は貴人、地の文に多い。
- **下二段活用＝謙譲**「～ております」。未然形給へ（給へず）・連用形給へ・連体形給ふる・已然形給ふれ。会話文・心内文で「思ふ・見る・聞く・覚ゆ・知る」の後に多い。
- **本動詞「給ふ」**＝「お与えになる」。動詞の連用形に付かず、体言＋をなどに続く。
- いちばんの決め手は「給ふる」「給ふれ」＝下二段謙譲、「給は」＝四段尊敬。

連体形と未然形を見れば一瞬で見分けられます。敬語は読解の主語判定に直結するので、確実にしておきましょう。

この問題集は無料です。古文の他の敬語（参る・奉る・侍り候ふ）のドリルや、文法解説とあわせてご活用ください。

誰でも古典塾 (<https://kotennosensei.com>) / 個別指導塾フィット・中本裕太